

IV-137

シルバーパスによる高齢者の外出行動への影響について

○東京都立大学大学院 学生会員 北川健介
東京都立大学工学部 正会員 山川 仁
東京都立大学工学部 正会員 秋山哲男

1. はじめに

東京都は高齢者の社会参加促進を目的に、70歳以上の高齢者に対し都内を走るバス・都営地下鉄が無料になる「シルバーパス」という形で間接的な経済援助を行なっている。しかし、このような経済的援助は、高齢者自身の外出支援となるが、他方で自治体等の財政負担を伴うことから、より有効な補助のあり方が求められている。

本研究の目的は、シルバーパスの利用実態とその問題点を明らかにすることであり、その内容として第一に、シルバーパスが高齢者の外出にどの程度影響しているかについて分析し、第二に、利用者の交通手段の自由な選択の観点からシルバーパスだけの補助がどの程度有効なのかについて検討する。

2. アンケート調査の概要

本研究では、バス依存地域で太田等¹⁾が行なった研究をもとに、東京都町田市郊外の小田急線玉川学園駅付近と町田市中心部とを結ぶバス路線とシルバーパス対象外の民営鉄道とに挟まれている地区を対象とし、アンケート調査を郵送により実施した。配布・回収数等は表-1の通りである。

表-1 アンケート配布・回収数

	配布数	有効回収数	有効回収率
非高齢者	700票	348票	49.7%
高齢者	910票	469票	51.5%
全体	1610票	817票	50.7%

3. シルバーパス所有率

現在、町田市はシルバーパスの所得資格者を対象に、郵送により発行しているが、「利用しないから」等の理由による申告があった場合のみ発行を止めている。また、所得制限による有料分バス対象者には郵送により通知している。

シルバーパスの利用状況は、個人の身体的条件・交通条件に大きく左右されると考えられる。本研究では、「小走りできるか」の程度から身体的条件を健常・中度・重度に分け、交通条件については、鉄

道駅とそこから離れているバス路線の双方を考慮し「駅からの距離」とした。そこでシルバーパスの所有率を2つの条件毎に示したのが図-1である。

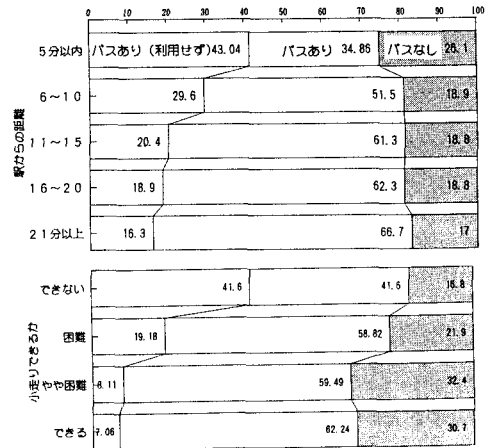


図-1 シルバーパス所有率

シルバーパスを所有していても全く利用していない層が多いことから、移動制約のある人やバス利用が不便な人にとってはシルバーパスが有効に利用されているとは言いがたい。

4. シルバーパスが高齢者の外出行動に与える影響

(1) 外出頻度

年齢経過に伴うシルバーパス所有別の延べ外出頻度を移動制約別に表したのが図-2である。

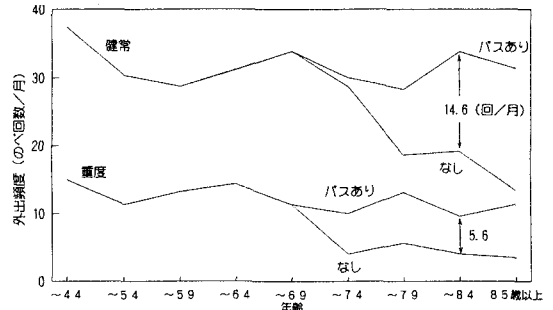


図-2 移動制約別外出頻度

一般には高齢になると加齢に伴い外出頻度が減少するが、移動制約による頻度の差こそあれ、シル

バーパス所有者は外出頻度の減少があまり見られず、頻度が非所有者に比べ高いことがわかる。これよりシルバーパスは外出を促進すると考えられる。

（2）バス利用頻度

移動制約別に加齢に伴うバス利用頻度の変化を示したのが図-3である。

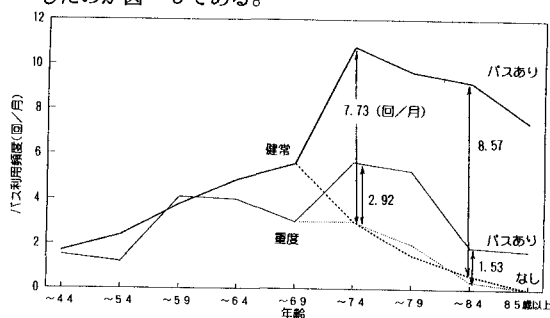


図-3 移動制約別バス利用頻度

70歳を境にシルバーパス所有者のバス利用頻度が増加していることから、シルバーパス所得によるバス利用が多いと思われる。しかし、シルバーパスは健康な高齢者には有効に使われているが、重度な高齢者には必ずしも有効に使われてはいない。

（3）分担率

70歳以上を対象に、町田市郊外から中心部への分担率を示したのが表-2、図-4である。

表-2 シルバーパス有無別分担率

	鉄道	バス	タクシー	車運転	車同乗	その他
シルバーパス所有者	34.5%	48.2	5.6	6.1	5.1	0.5
非所有者	53.4	20.5	4.1	10.3	8.8	2.9

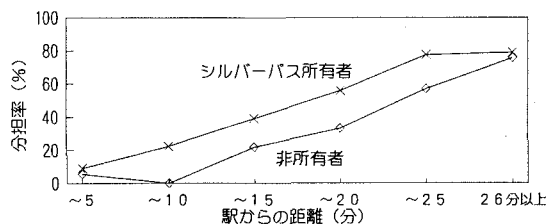


図-4 駅からの距離別バス分担率

シルバーパス所有者は鉄道よりもバス利用が多く、意識データによっても鉄道、徒歩、車同乗からバス利用に転換している。また、駅から離れるほどバスの分担率が高くなっているが、シルバーパス所有者にその傾向が強いことがわかる。しかし、鉄道駅付近では、シルバーパスを所有していてもバスを

利用する人が非常に少ないことから、バス利用が不便で鉄道駅にアクセスしやすい地域では、シルバーパスは有効なものであるとは必ずしも言えない。

5. 希望する補助

シルバーパスという特定交通手段に限定した補助は身体条件・交通条件によっては公平ではない。

シルバーパス所有者が、実際の様な補助を求めているかを身体・交通条件別に図-5に示した。

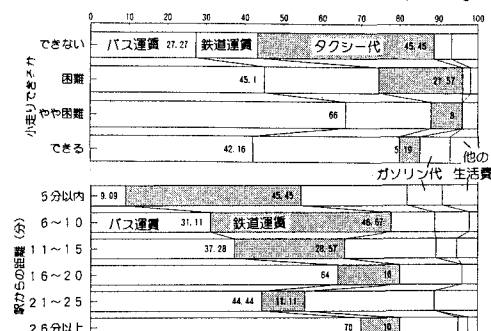


図-5 希望する補助の内容

移動制約がある人ほどタクシー代、鉄道駅に近い人ほど鉄道運賃の補助を、現在のバス運賃の補助よりも希望していることがわかる。また経済的理由によりバスを利用したくても、路線や運行本数が不十分な為にバスを利用しにくいことなど、シルバーパスという単一的な補助が必ずしも効率的に機能しているとは考えられない。今後、個人のニーズに答える選択性のある補助が必要であると考えられる。

6. まとめ

- ①シルバーパスは加齢に伴う外出頻度の減少を抑えたり、バス利用の促進を図るという点で高齢者の外出行動に影響を与える。
- ②バス利用が不便な人、移動制約が大きい人においては有効利用されておらず、他の補助が求められていることから、シルバーパス制度が最も効率的な補助であるとは言いがたい。

<参考文献>

- 1) 太田政彦, 山川仁, 秋山哲男

「シルバーパスを考慮した高齢者のバス利用特性」

土木計画学研究・講演集No. 15(2), pp. 75~78, 1992. 11.